

適正施設ガイドライン

【ニッポンバラタナゴ *Rhodeus ocellatus kurumeus*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 温度（水温）

- 1) 成魚・未成魚：常温 16～28℃
- 2) 仔稚魚：21℃～28℃

ただし、高温下では死亡することもあるので、25℃以下が望ましい。

水温の急激な変化が起こることは避ける。変化の著しい場合はクーラーやヒーターを設置して温度変化を少なくする必要がある。

1-2 設置場所

上記の温度条件を満たす場所が望ましい。また、水槽の前を頻繁に人が行きかう場所などでは、魚が落ち着かないことがあるので、なるべく避けた方が良い。どうしても設置する場合は、水槽の前面以外の3面をスクリーンで隠すか、隠れ家を多く設置するなど対処する。

（写真1、2）

1-3 照明（日照、人工照明、照明時間長）

照明は自然光、人工照明（蛍光灯、LED灯）のどちらでも良い。人工照明下では日長時間に合わせるようタイマー制御等を行う。直射日光があたる場合は、水温が急激に変化する恐れがあるので注意しなければならない。また、光が強ければ、水槽内に藻類が発生しやすくなるので、メンテナンスの手間も考えなければならない。

1-4 水槽容積

水槽の容積は魚の成長により変更することが必要である。浮上後の仔稚魚の場合、18ℓのプラスチック水槽で30～100個体ほど飼育できるが、収容尾数が多くなると、水質の悪化が急速に進むことがあるので、収容個体数は少ない方が良い。成長に伴い個体数を減らすか、容積の大きな水槽に移動する必要がある。未成魚や成魚は、90cm水槽では40～50個体ほどが望ましい。また、FRPなどを用いた屋外水槽で個体数を多く飼育することも良いが、外気温による急激な水温変化には注意する。

1-5 構造、設備

成魚・未成魚では、水槽の水底に南国砂、大磯砂などの細砂を敷き詰め、底面ろ過でよい。卵・浮上前の仔魚の場合は、シャーレを用意し、沸騰させて冷ました水に、エアレーションを十分に施したものをに入れる。換水方法は別のシャーレに同様の水を用意し、ピペット等を用いて移動させる。浮上後の仔稚魚については、水槽内に何も入れなくてもよく、稚魚が流されない程度の軽いエアレーションを行う。必要に応じてサイフォンなどで残餌などを掃除する。

1-6 飼育水（水質）

淡水魚の飼育水として実績のある天然水、または塩素を中和した水道水でよい。pHは、弱アルカリ～弱酸性でよい。



写真1 成魚・未成魚の飼育水槽

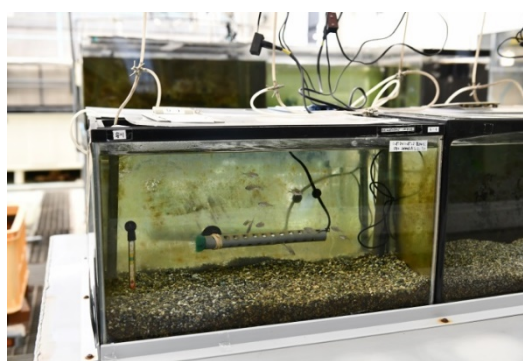


写真2 稚魚・未成魚用の飼育水槽